第２号様式　別紙１　　（令和 4 年度計画分　事業活動環境報告書）

氏名 （法人にあっては名称）	ダイキョーニシカワ株式会社
住所	広島市安佐北区可部南2-25-31
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 3 年度

１　事業者の要件（⑴、⑵については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量）

該当する事業者の要件	☑ ⑴原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上（特定事業者） ☐ ⑵エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上（特定事業者） ☐ ⑶特定事業者以外の事業者

２　事業の概要

事業者の業種	輸送機械器具用プラスチック製品製造業（加工業を除く） （主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号： 1832 ）
事業概要	1961年西川化成株式会社として創立、自動車部品（ウレタン製品）製造を開始した。2007年に旧ジー・ピー・ダイキョー株式会社と合弁により、ダイキョーニシカワ株式会社を発足。当社は「創造」「変革」「飛躍」をキーワードに、日本を代表する総合プラスチックメーカーとして歩み始め現在に至る。

３　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

（※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比　((a-b)/a)×100　(aは基準年度の実排出量)）

項　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度（平均値）	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度（平均値）
温室効果ガス実排出量(*5)	6,109 t-CO_2	5,986 t-CO_2	6,456 t-CO_2	4,592 t-CO_2	t-CO_2	t-CO_2
		2.0 %	-5.7 %	24.8 %	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		5,986 t-CO_2	6,456 t-CO_2	4,592 t-CO_2	t-CO_2	t-CO_2
		2.0 %	-5.7 %	24.8 %	%	%
実績に対する自己評価	コロナ禍が収まり、半導体不足が解消され、生産量が増加 三入工場に関しては減産により負荷低減					

*1　基準年度とは、温室効果ｶﾞｽの抑制度合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去３か年度の平均値とすることができる。

*2　特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3　原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4　温室効果ｶﾞｽ排出量とは、二酸化炭素（ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの及び非ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの）、ﾒﾀﾝ、一酸化二窒素、ﾊｲﾄﾞﾛﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ、ﾊﾟｰﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ及び六ふっ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5　温室効果ｶﾞｽ実排出量とは、上記(*4)のうちｴﾈﾙｷﾞｰ起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ｶﾞｽ排出量が特定事業者単位で3,000ﾄﾝ以上のものの排出量の合算をいう。

*6　温室効果ｶﾞｽみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ｶﾞｽみなし排出量は、温室効果ｶﾞｽ実排出量と等しくなる。

⑵　事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況　（※任意記載）

（※原単位の下段は削減量の対基準年度比　((a-b)/a)×100 ）

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3 年度	令和4～令和6年度（平均値）	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度（平均値）
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価						

⑶　温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

1.高圧変圧器トップランナーへ（高効率）　50ｔ　CO2削減
2.新規設備導入時トップランナーモーター採用　25ｔ　CO2削減
3.LED照明更新　普及率50%　18ｔ　CO2削減

⑷　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値(*8)の活用等）

特別無し

４　その他の取組の実施状況

加熱炉昇温時間短縮によるガス使用量削減

*7　原単位とは、温室効果ｶﾞｽ排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
*8　環境価値とは、ｵﾌｾｯﾄｸﾚｼﾞｯﾄ制度等により、温室効果ｶﾞｽの排出削減等を行うﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを通じて生成される温室効果ｶﾞｽの削減量等をいう。なお、温室効果ｶﾞｽみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

第２号様式　別紙３　　（令和 4 年度計画分　事業活動環境報告書）

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

（※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要）

事業所の名称	ダイキョーニシカワ株式会社　可部工場
事業所の所在地	広島市安佐北区可部南2丁目２５－３１
事業所の業種	輸送機械器具用プラスチック製品製造業
事業の概要	自動車内外装部品製造及びその他のプラスチック製品製造

１　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

（※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比　((a-b)/a)×100　（aは基準年度の実排出量））

項　　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和 3　年度	令和4～令和6年度（平均値）	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度（平均値）
温室効果ガス実排出量(*4)	4,387 t-CO_2	4,300 t-CO_2	5,311 t-CO_2	4,317 t-CO_2	t-CO_2	t-CO_2
		2.0　%	-21.1　%	1.6　%	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*5)		4,300 t-CO_2	5,311 t-CO_2	4,317 t-CO_2	t-CO_2	t-CO_2
		2.0　%	-21.1　%	1.6　%	%	%
実績に対する自己評価	コロナ禍が収まり、半導体不足が解消され、生産量が増加					

⑵　温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

1.LED照明更新　　工場普及率50%→75%　　5t CO2削減

2.省エネ機器を採用した新規設備導入　18t CO2削減

⑶　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特記事項無し

２　その他の取組の実施状況

特記事項無し